

田牧一郎の 第6回 カリフォルニア稲作便り

3月末からの作業を控え、「自由に作り、自由に売る」経営のための勉強には終りがありません。

カリフォルニアの稲作地帯の1997年は大雨で始まりました。

昨年同様、太平洋から運ばれた暖かい雲が北カリフォルニアに大量の雨を降らせ、年末に降った雪をも解かし、一気に川やダムに流れ込みました。

その結果、水田や畑に使う灌漑用水を溜めているダムの水位が上がり、大量の放水が行われたので水田地帯を流れる主要な河川（サクラメント川、フェザー川、ユバ川）のすべてが洪水警戒水位に達しました。住民約10万人が避難し、一部の堤防が決壊して家屋の浸水や道路などに多くの被害が出ました。（幸い、私の住んでいるところは大丈夫でした）

このストーム（パイナップルエキスプレス）が来る前までは、降水量が平年に対し70%程度しかなく、降水が必要ではあったのですが、これほどまでになるとは、激しいカリフォルニアの気候に改めて驚かされました。

しかし、ダムは満水となりました。今後のカリフォルニア東部の山岳地帯に降る雪が、春先には徐々に解けだし十分な灌漑用水を供給してくれることとなります。今年の作付けに必要な水はたぶん大丈夫でしょう。

●97年稲作

こちらの生産者も96年の販売を終えると、次年の計画に取り組みます。

昨年の結果としては収量が期待通り上がりず、

販売価格も特別高く販売できたわけでもなく、月並みな収支になりました。

生産の技術的な反省を行い、次の計画を立てるのですが、私のところは除草剤と水管理が重点課題になりそうです。

昨年の予期せぬ降雨によって稲の初期生育対策と雑草対策が完全に乱れ、収穫量減少の大きな原因になってしまいましたので、このような状況にも対応できるよう計画をしつかり立てなければなりません。

具体的には、

- 1、除草剤の種類と使用するタイミングを代えること
- 2、播種時期の水深と生育初期の水管理を丹念に行うこと
- 3、中期あるいは後期の除草剤を準備すること

などです。
それぞれ作業時間や経費が多くなる可能性が出るわけですが、面積当たりの収穫量を増加させることでカバーされる事になるでしょう。

●食味と品質

カリフォルニア産米の食味テストの結果はまずまずでした。

コメの粘りを表すアミロースは短粒種で17〜18を示し、実際食べても十分な粘りが感じられました。中粒種についてもアミロースはそこそこの値



たまき・いちろう／1952年12月郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。自作地の他、地域の作業受託を行なった後、89年渡米。カリフォルニア州で稲作（約80ha）を開始。タマキ・ファームス・ジャパン 045-781-6426

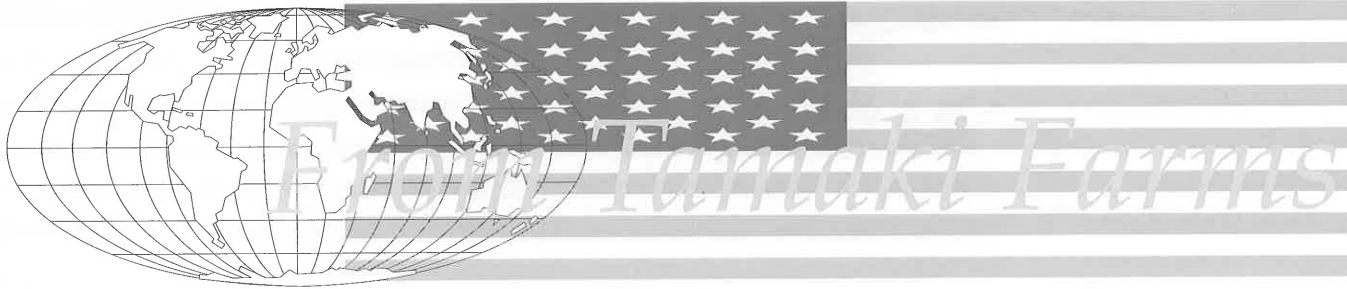
（18〜19）を示し、炊飯直後は粘りがありますが、残念ながらかさめてしまおうと固くばさばさしてしまします。

蛋白質はコシヒカリを使用していると思われるブランドは5〜6%、その他の短粒種は6〜7%、中粒種は7〜8%と非常にはつきりした傾向が見られました。食べた感じもおおかたの人のうまさの順序と同様になっています。

これらの数値は食味計を使用して計測したものです。食味計のメーカーや計測の仕方でも数値がばらついたりして、信頼度について多くの議論のあることは承知しています。しかしカリフォルニアのコメを測ってみて、その各成分の絶対値の誤差なり機種による差は多少あっても、計測された成分の数値と食べたときの旨さにはそれなりの相関が現われているように私は思います。

アミロースは栽培された気象条件によって、品種の持つ特徴が出ると言われていますので、元々低アミロース米を栽培品種として選び、蛋白質を低くする栽培方法をとることで食味の良いコメを収穫できることとなります。

品質については発酵臭の話を書きました。が、せっかくできた美味しいコメが最後の乾燥保管の段階で台無しになってしまうのは残念でなりません。従って上手な乾燥と保管が最大の問題になります。



委託による乾燥・保管が多いカリフォルニアです。で、上手な乾燥所を選ぶ事が重要になってきます。しかし乾燥業者も（特に日本向けのコメを多く扱っている所は）次第に気を付けて作業を行うようになってきていますので、徐々に解決される問題かと思えます。

●生産者価格

コメの販売価格を予想することは大変困難な事です。ある程度の予測をしながら計画を立てなければなりません。

96年産米の市中の価格は現在販売途中であり、動いている最中です。傾向として中粒種はやや低めに推移しています。このまま徐々に下がってしまう可能性があり、生産者の受取価格も清算払いの部分があるものは、今年の夏に受け取る金額が予想外に低かったということにもなりそうです。

短粒良質米にもこの傾向が見られます。96年産の総生産量に対し日本向けの輸出量が期待量より低かったことから、アメリカ国内など既存のマーケットに販売を余儀なくされるため、多少だぶつき気味となり売値が下がる可能性があります。そのため今年の生産者価格は良くて現状維持、あるいは多少下がる可能性も考えられます。短粒良質米の作付けは、カリフォルニアの作付け面積から見ればまだ1%にも満たない量であり、消費も伸びてはいるのですが、生産者の原料粗販売価格は特別と言うわけにはいきません。



“パイナップルエクスプレス”による洪水の様子。道路は通行止めとなり（下）、クルミ（ウォールナッツ）園はすっかり水に浸かってしまった（左）。



●販売先

このような状況では、生産者の販売先の選択が一年を終わっての結果に大きく響きます。

当然、長期間にわたって購入してくれる精米会社や、生産物をすべて引き取ってくれる農協組織などと大事につきあっていることも経営を安定させる大きな要素になります。そのような場合でも自らマーケットを勉強し、誰がどのように販売できるのか、マーケットでの評価はどうか、マーケットでの判断しながら、販売先を選ぶ必要があります。

あるいは自ら製品にして販売することも一つの選択肢としてあるわけです。生産者として生産物を高く販売する為の最大の努力というのは、前述のような販売先を見分ける選択眼を身につけることではないかと思えます。

しかし、全体の相場が弱いときには実質の売値が下がることも仕方ありませんので、経営の計画時には価格変動も当然考慮しておかなければなりません。

●生産コスト

さて、生産コストの部分ではどのような変化が今年予想されるのかといいますと、「わずかな上昇」という表現ができると思います。

昨年はガソリンや軽油など燃料価格が上昇し、トラクターやハーベスターの作業料金が上がりました。籾や製品の運搬のための輸送料金も値上がりしました。しかし現在の燃料価格は、一時期より

り下がつており、昨年の値上がりで今年もカバーできるであろうと予想できます。

人件費の部分は毎年の物価上昇分がコスト増につながります。さらにアメリカ合衆国全体の最低賃金が引き上げられることになりましたので、確実に人件費は上昇することになります。

人件費の引き上げによつて購入するもの全てが上昇する可能性があります。基本的に価格競争の中にあるものですから、大きな上昇は無いと考えても良いと思います。

カリフォルニアの稲作でいつも問題になる水ですが、先に述べたように量的には心配ないようですし、価格も大きな変動は無いように思います。従いまして据え置きか人件費上昇分の値上げ程度になるのかも知れません。

借地料に関しては常に値上げを期待する地主と、生産をする小作者の経費を抑えようとする両方の動きがあり、色々な噂が出たり消えたりしています。しかし全体のコメ相場が弱い中では据え置きされるのがほとんどではないかと思えます。

このような状況の中でコスト引き下げの努力の余地はどこにあるかといいますと、肥料や農薬の使用に関しての部分ががあります。使用量を少なくすることと安く購入することが、大きなコストダウンにつながります。

農機具類にかかる経費を抑えることも重要なことで、自らできる点検や整備を入念に行い長時間の使用に耐えるような状態にしておかなければなりません。

●まとめ

前述のような事を踏まえて今年の作付けや販売の計画を立て、3月末から作業にかかります。このようなことを毎年繰り返して色々と学んでいます。

生産技術面では、

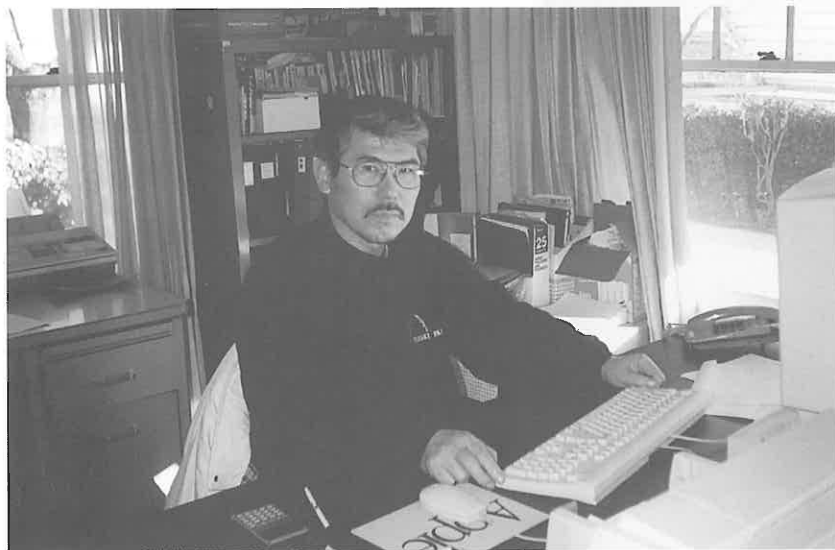
- ・「大規模な直播栽培を飛行機での湛水直播」
- ・「トラクターとブロードキャスターでの乾田直播」

大区画水田での栽培では、

- ・「一枚2haから5haの水田での播種と栽培管理」
- ・「短粒良質米の肥培管理」

経営面では、

- ・「カスタムワークを利用した大規模稲作」
- ・「世界各地の短粒良質米マーケットの実態」
- ・「原料粉の販売方法のいろいろ」



デスクワークも経営者の重要な仕事

などについてです。細かく数え上げれば切りがないのですが、すべてのテーマに終わりはありません。

ここカリフォルニアでの大規模低コスト稲作の実験も、言い方によつてはまだ数回経験したにすぎません。今後もいくつものテーマを持ちながら経営を継続することが大切なことだと思っています。日本国内での稲作とは全く違った環境でのカリフォルニア稲作経営です。

「自由に作って、自由に売る」というのが私の稲作経営についての理想です。ここには（実現できるかどうかは本人の努力もさることながら）私の考えていた「マーケットが判断する」という原則があります。

日本の状況も次第にそのように動いてきていると私には見えます。

ここで学んでいることが役立つ時期がきており、日本で目指していた大規模低コスト稲作の実践の時にきているとは、数年前から強く感じています。

しかし諸般の事情から私自身が今すぐに動くことはできず、函がゆい思いもあります。でもここで短期間、あるいは長期間学んだ青年達が日本国内で熱心に稲作に取り組み、あるいは新規に就農し、頑張っている現実があります。

今は私が彼らから日本の稲作の現状を教えてもらっています。

私の取り組みが、農業を志す若い人たちの研修の場となり、一緒に勉強できていることがカリフォルニアで始めた実験的な稲作農場の、今までの最大の成果ではないかと思っています。

今後世界世界の稲作の向上を目指しながら主要な食糧生産の担い手として、情報の相互交換をしながらコメ作りを継続していきたいと考えています。